



発行者

北海道へき地・複式教育研究連盟
www.hamanasu.com./doheki

委員長 河田 茂

編集責任者 管澤 秀信

印刷所 広小路印刷株式会社

滝川市一の坂町西3丁目1番31号 TEL0125-22-4325

題字 書家 濱谷 彩鶴 (はまや さいかく) 氏

小規模のよさを今こそ生かすとき

北海道へき地・複式教育研究連盟委員長 河田 茂



平成25年度の活動を終えるにあたり、全道各地の会員の皆様に改めて感謝を込め、ご挨拶申し上げます。

今年度は、第62回全道へき地複式教育研究大会日高大会が、全道各地より多数の参加者を得て、盛会裏に終えることができました。『ガイド学習』の発信地として、脈々と日高へき地複式育研究会が積み上げてこられた実践研究に改めて敬意を表しますとともに、大会実行委員の皆様へ深く感謝いたします。また、次年度第63回全道大会開催地となる十勝地区では、10月にプレ大会を開催しました。道へき・複連の第8次長期5か年計画の最終年として5年間を総括し、第9次長期5か年計画につなげる大会となりました。また、10月には今回で最後となる実践研究大会を開催しました。本連盟三大事業の一つとして28回を数えてきましたが、加盟校数減少による事業見直しの一環としてやむなく今回で最終回としました。3地区からの実践発表に対して、参加者の熱心な研究協議により複式教育の充実に資する大会となりました。

さて、全国的にへき地複式校は激減の一途をた

どっています。本連盟も会員規模に合わせた事業の見直しに向けて今年度から具体的な行動に着手しています。前述の実践発表大会を廃止し、次年度から全道大会日程へ繰り入れていくことや、全道大会の開催ローテーションの見直し、道小・道中との連携強化、北海道立教育研究所・北海道教育大学へき地教育支援部門との連携など一歩前へ踏み出しました。へき地複式校の統廃合に歯止めが掛からない厳しい状況ではありますが、今まで先輩達が熱い情熱と努力で築きあげてきたへき地複式教育のレベルを下げることは、そこで学ぶ子どもたちを前に許されるものではありません。教育研究を本分として歩んできた本連盟の役割は、会員校が減少してくるこれからこそ益々重要になってくると考えています。

終わりになりますが、今後も、これまで培ってきた北海道のへき地複式教育の財産を生かし、各校の実践研究を積み重ね、少なくなった会員校同士がしっかりと手を取り合って、へき地複式教育の更なる充実と発展に向けて努力していく所存です。今後とも会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げますとともに、今年度のご支援に対して感謝とお礼を申し上げご挨拶いたします。

平成25年度 会務報告

事務局長 柿崎 秀顕

1 一般経過報告（概要）

- 5月10日 平成25年度定期総会
第1回組織検討委員会
- 20日 第1回企画委員会
- 21日 第1回研究推進委員会
第1回常任委員会
関係機関挨拶回り
- 29～30日 全へき連春季総会
第1回理事会
- 6月11日 全へき総会議案書、第8次長計を各
地区事務局へ送付
- 18日 全へき通信第1号を各地区事務局へ送付
- 21日 14管内組織一覧、研究大会等の情報
を各管内事務局長に送信
道へき複連平成25年度要覧のHP掲
載依頼
- 25日 道へき・複連情報147号発行
- 27日 第2回常任委員会
第2回組織検討委員会
- 7月5日 全へき連及び道へき複連の要望書を
提出（道小）
- 8～9日 第2回研究推進委員会
- 16日 全へき連及び道へき複連の要望書を
提出（道教委義務教育課長）
- 17日 第3回常任委員会
- 25～26日 全へき連第2回理事会
- 8月1日 第3回組織検討委員会
- ～3日 十勝大会関係挨拶回り
- 31日 道へき・複連OB会役員会、定期総会
- 9月25日 第3回常任委員会
- 26日 第1回監査委員会 評議委員会
- 26～27日 第62回北海道へき地複式教育研究大
会日高大会
- 10月11日 第63回北海道へき地複式教育研究大
会十勝プレ大会（8会場）
- 18日 第63回北海道へき地複式教育研究大
会十勝プレ大会（1会場）
- 24日 第3回研究推進委員会
- 25日 第28回実践研究発表大会
- 11月2日 道へき・複連OB会役員会
- 6日 全へき連秋季総会
第3回理事会
- 7～8日 第62回全国へき地教育研究大会三重大会

- 13日 全国へき連の基本調査及び第8次長
計を各管内事務局へ送付
- 21日 第38回全へき連研究推進協議会
- 12月2日 道へき・複連情報148号発行
- 1月10日 第4回企画委員会
- 23日 第4回常任委員会
第4回組織検討委員会
- 2月13～14日 全へき連第5回理事会
第4回研究推進委員会
- 24日 道へき・複連情報149号発行
- 5月8日 第5回常任委員会
第2回監査委員会
- 9日 平成26年度定期総会
第1回組織検討委員会

2 一般業務報告

本連盟は、昭和23年に結成され65年目を迎えました。これまでの65年間、地域に根ざした教育を探求するとともにへき地校の教育条件整備を進め、確実に成果を重ねてきました。平成25年度においても、研究、組織、教育条件整備等の課題解決に向け業務を推進してきましたので、その概要を申し上げ会務の報告と致します。

◆ 研究面では、第8次長期5か年研究推進計画の最終年に当たり、第62回全道へき地複式教育研究大会日高大会、第63回全道へき地複式教育研究大会十勝プレ大会、第28回北海道へき地複式教育実践研究発表大会を開催いたしました。現地実行委員会、会場校並びに各地区へき地複式連盟（研究会）の多大なご努力とご協力により、実践的研究成果が全道に発信され、第8次長計の研究を総括し、第9次長計へと発展させる研究成果の発信をすることが出来ました。また、今年度で最後となり、全道大会に統合することとなった実践研究発表大会は、ホテルライフオート札幌を会場に、全道各地のへき地・複式教育の実践発表と交流を行い、有終の美を飾ることができました。

◆ 組織面では、各市町村による学校規模適性配置計画の推進や少子化による児童生徒数の減少からへき地・小規模校の統廃合が進み、加盟校及び会員の減少が加速しております。これに伴う今後の組織や事業の在り方、財政運営について、組織検討委員会の答申を受けて、ICT活用による業務推進、会議数の見直しなど、組織運営のスリム化と効率化に向け検討しました。

また、未加盟校への働きかけについては、各地区に道へき・複連発足の趣旨や目的、加盟することのメリット等についての啓発活動を行うなどの意識高揚に向けた取組をお願いしてきました。

◆ 教育条件整備については、3学級4定員や教頭未配置校の解消をはじめ、へき地複式校の抱える諸課題解決のため、全へき連、道小、道へき・複連OB会と連携しながら、関係機関に要請してきました。

- ・道へき・複連OB会が中心となり、平成22年度に全道の小規模・へき地・複式学級を有する学校の実態についてアンケート調査を行いました。現在は、集計作業が完了し、分析を行う段階にきています。また、「へき地手当に関する規則の運用等についての一部改定」により平成22年4月から始まったへき地新級地の適用について、今後も、地域の実態に応じた算定であるか、適切な調整点であるかなどの検討に努め、国や道へ意見具申を続けていきます。

- ・全へき連のホームページ充実の一環である、全国のへき地小規模校のホームページとのリンク作業に取り組みました。加盟校は減少していますが、リンク校は情報環境の整備等により増加しています。

◆ 研究推進、組織確立、財政上の諸課題につきましては、組織検討委員会を設置して検討を重ねてきました。評議員会で中間報告させていただきましたが、連盟だけでなく各地区の課題も踏まえた論議を重ね、時代や社会環境の変化に対応した組織運営を目指してきました。

3 情報関係活動経過報告(概要)

事務局次長 管澤 秀信

5月10日	定期総会で「道へき・複連情報」発行計画を承認
21日	情報147号原稿依頼
6月3日	情報147号原稿集約
25日	道へき・複連情報147号発行
26日	道へき・複連ホームページ更新
9月26日	情報148号原稿依頼
11月15日	情報148号原稿集約
12月2日	道へき・複連情報148号発行 道へき・複連ホームページ更新
1月23日	情報149号原稿依頼

2月7日	情報149号原稿集約
24日	道へき・複連情報148号発行 道へき・複連ホームページ更新

4 情報関係業務報告

(1) 情報関係

事務局で「道へき・複連情報」(147、148、149号)を3回発行し、広報活動に努めました。

148号では第62回全道へき地複式教育研究大会日高大会を特集し、全体会及び各分科会の研究成果と課題等について情報提供することができました。また、第63回全道へき地複式教育研究大会十勝プレ大会についても、研究主題や分科会会場について伝えることができました。あらためて日高及び十勝へき複連の情報提供と原稿執筆にお礼と感謝を申し上げます。

道へき・複連ホームページの内容更新は、北海道教育大学・地域教育研究支援センターの協力を得て行い、すでに148号以前のもは掲載されておりますが、引き続き149号も更新の依頼をする予定です。

各地区へき・複連事務局の皆様には、ご多用の中、情報提供、加盟校への種々の連絡や配付等にご尽力いただき、心よりお礼申し上げます。

〈各号の主な内容〉

【147号】

- ・平成25年度道へき・複連「定期総会」特集号
- ・平成25年度道へき・複連「定期総会」報告
- ・第62回全道へき地複式教育研究大会日高大会案内
- ・第63回全道へき地複式教育研究大会十勝プレ大会案内

【148号】

- 第62回全道へき地複式教育研究大会日高大会特集号
- ・第62回全道へき地複式教育研究大会日高大会報告
- ・第63回全道へき地複式教育研究大会十勝大会案内

【149号】

- 平成25年度道へき・複連活動報告特集号
- ・平成25年度道へき・複連活動報告特集
- ・第63回全道へき地複式教育研究大会十勝大会に向けて
- ・第64回全道へき地複式教育研究大会宗谷プ

- レ大会に向けて
- 《道へき・複連ホームページの内容》
- ・シンボルマーク、へき地教師の歌
- ・要覧、研究主題
- ・全道へき地複式教育研究大会関係
- ・全道へき地複式教育研究大会プレ大会関係
- ・へき地複式教育実践研究発表大会関係
- ・全国へき地教育研究大会関連
- ・「道へき・複連情報」
- ・地区へき・複連情報 など

(2) 「全国へき地教育新聞」関係

① 「全国へき地教育新聞」拡大の取組

総会等において意義や利点を踏まえ購読拡大の取組をお願いしてきました。

- ・「全国へき地教育新聞」は、全国へき地教育研究連盟が編集し、教育新聞社が発行するもので、全へき連とへき地・複式校を結ぶ唯一の機関紙である。内容は、各種教育情報や教育研究大会情報、教育研究実践を発表するなど、我々がつくる我々の新聞である。
- ・「全国へき地教育新聞」は、読者の購読料によって刊行されており、数の減少が発行を困難にする大きな要因になってきている。
- ・各地区へき・複連の財政に多少の貢献がある。各地区へき・複連で納入する場合、一部につき150円の還元がある。

〈取組の手立てとして〉

- 各地区へき・複連で地教委等、関係機関に購読料の予算化を働きかける。
- 各地区へき・複連の会議、会合などで購読を呼びかける。
- 各地区へき・複連に「全国へき地教育新聞」担当者または係を置くようにする。

以上のような働きかけを行いながら、各地区へき・複連のご協力をいただき、購読拡大の取組をしてきました。

今後ますます統廃合や町村合併、市町村財政逼迫等により購読数が減少することが予想されますが、「全国へき地教育新聞」の「へき地・複式・小規模校交流の場、情報交換の場」としての意義を理解していただき、購読について強く働きかけていきます。

② 「全国へき地教育新聞」原稿執筆の取組

原稿種別、送付月を地区毎に割り振り執

筆をお願いしました。各地区へき・複連のご協力と執筆者各位に心より感謝とお礼を申し上げます。

新聞掲載については、順次掲載され、情報、実践の交流がなされております。

③ 「全国へき地教育新聞」執筆原稿依頼について

平成25年度の原稿執筆依頼送付については、次の通りお願いしました。
全国へき地教育新聞編集局の依頼で、執筆原稿はメールまたは封書にて返信することになっていきますので、次年度もそのよう

④ 「全国へき地教育新聞」の《原稿種別》

- ・論評（市町村教育長、各局指導主事）
- ・山紫水明（校長）
- ・随想（教頭、教務主任、学級担任など）
- ・心温まる話（どなたでも）
- ・私の推薦する一冊の本（校長、教頭他）
- ・やすらぎ保健室（養護教諭）
- ・さわやか事務室から（事務職員）
- ・わが町・わが学校（保護者）
- ・研究実践校紹介（実践校）
- ・子どもたちの学校紹介
- ・子どもたちの作品

「全国へき地教育新聞」原稿執筆者地区別一覧
(平成25年度原稿本数42本)

原稿種別 番号	8月	9月	10月	11月
1	※	胆振	※	空知
2	根室	オホーツク	釧路	胆振
3	日高	檜山	留萌	石狩
4	胆振	渡島	檜山	宗谷
5	十勝	宗谷	根室	上川
6	留萌	十勝	石狩	釧路
7	檜山	後志	オホーツク	根室
8	空知	釧路	上川	渡島
9	石狩 渡島	日高 上川	宗谷 十勝	オホーツク 後志
10	後志	※	※	留萌
11	※	日高	空知	※

平成25年度 総務部活動報告

副委員長 田中 和敏

1 活動経過報告

- 5月10日 道へき・複連総会
第1回組織検討委員会
- 5月21日 第1回常任委員会
常任委員関係機関挨拶回り
- 6月17日 全国基本調査依頼
(全道14管内メール配信)
- 6月27日 第2回常任委員会
第2回組織検討委員会
- 8月1日 第3回組織検討委員会
- 9月25日 第3回常任委員会
- 9月26日 平成25年度評議委員会
組織検討委員会中間報告
- 9月26～27日
第62回全道へき複研究大会日高大会
- 11月4日 中間報告意見集約依頼
(全道14管内メール配信)
- 10月11日・18日
第63回全道へき複研究大会十勝プレ大会
- 1月23日 第4回常任委員会
第4回組織検討委員会

2 平成25年度教育予算要望

〈基本的な要望事項〉

1. 教員定数の配置基準および学級編成基準の改善
2. 教職員の生活の安定・向上のための改善
3. 教職員の資質向上に関わる研修についての改善
4. 学校経営の適正化と充実への対応
5. へき地教育の推進についての改善
6. へき地勤務条件の充実

上記「基本的な要望事項」にもとづき、教育予算にかかわる要望活動を行ってきた。

- (1) 北海道文教施策・予算策定に関する要望活動

道小・道中・道教頭会一体となって予算策定に向けた要望書を提出した。

- (2) 全へき連と連携した要望活動

全へき連からの要望を受け、道教委への文教施策・予算策定に関する要望書の提出、道

小・道中へ要望活動への支援要請を行った。

3 へき地級別指定見直しに関する取組

平成22年度の見直しにより、へき地級の指定がはずれた学校、特に複式校でありながら無級地となった学校において会費徴収の同意が得られず、退会を余儀なくされる学校が出ている。それによる会員の減少は、組織体制や財政面に大きな影響を与えている。

次期見直しは、平成28年頃と予想されるので、道教委の動きを注視しながら、地域の実態に応じた算定であるか、適切な調整点であるかなどの情報収集に努め、全へき連、道小、道へき・複連OB会と連携しながら、国や道へ意見具申を続けていく。

4 調査活動

- (1) 全へき連基本調査

各地区連盟のご協力により、予定通り集約し、提出完了。全へき連より集約結果が届き次第、配布の予定。

- (2) その他調査依頼

1月末現在、依頼なし

5 組織検討委員会の活動概要

今年度も組織検討委員会を設置して、組織体制、研究活動、財政等の在り方や改善について協議・検討してきた。

- (1) 組織検討委員会の構成

委員長：沢口 智 (道北ブロック・宗谷)
委員：品田 敏 (道央ブロック・石狩)
：佐藤 玲子 (道東ブロック・根室)
：登坂 恭之 (道南ブロック・胆振)

他に常任委員(河田委員長、田中総務部長、石田研究部長、松枝財政部長、柿崎事務局長)を加え、計9名で構成

- (2) 平成25年度の検討課題

- ①組織体制・組織運営の改善
- ②研究体制・研究内容・研究大会運営の改善
- ③財政健全化に向けての改善
- ④その他：今日的課題
 - ・へき地級見直しへの対応
 - ・理科、社会科における学年別指導の研究について

25年度大会部報告

副委員長 久住 勉

1 大会名

第62回全道へき地複式教育研究大会日高大会
第63回全道へき地複式教育研究大会十勝プレ大会
第62回全国へき地複式教育研究大会三重大会

2 日高大会の概要

(1) 研究主題

主体的・創造的に学び、豊かな心でたくましく
ふるさとを拓く子どもの育成
～へき地・複式教育の特性を生かし、
児童生徒一人一人に未来に生きる力を育む
学校・学級経営の充実を目指して～

(2) 大会スローガン

日高の大地に生きる 若駒のような子らに
豊かな心と確かな学びを！

(3) 開催期日

平成25年 9月26日(木)～27日(金)

(4) 大会内容

◇26日(木) 1日目 新冠レ・コード館(新冠町)
開会式
基調報告
記念講演 講師 向谷地 生良氏
「“弱さ”の持つ力と可能性を育む教育」
閉会式
感謝状贈呈
次期開催地挨拶(十勝大会実行委員長)
※歓迎交流会(ホテルローレル；新ひだか町)

◇27日(金) 2日目 5町7会場

第1分科会…えりも町立えりも岬小学校
第2分科会…えりも町立笛舞小学校
第3分科会…浦河町立野深小学校
第4分科会…新ひだか町立東静内小学校
第5分科会…平取町立紫雲古津小学校
第6分科会…平取町立二風谷小学校
第7分科会…日高町立里平小学校

(5) 成果と課題

- ①近隣校と分科会実行委員会を組織するとともにプレ大会の成果と課題を日高管内として整理し共有することで組織的な大会運営と研究が行えた。研究の成果を全道、管内にどう発信するかが課題である。
- ②第8次長期5か年推進計画のまとめの年であり、網走大会、胆振大会、上川大会(全国大会を兼ねる)、石狩大会の成果を引き継ぐことで、へき地複式の特性を生かした研究となり、次期の長期5か年推進計画への橋渡しができた。

3 十勝プレ大会の概要

(1) 研究主題

主体的・創造的に学び、豊かな心で
たくましくふるさとを切り拓く子どもの育成
～へき地・複式教育の特性を生かし、
児童生徒一人一人に未来に「生きる力」をは
ぐくむ学校・学級経営の充実をめざして～

(2) 十勝大会スローガン

大空と大地の恵み「十勝野」に生き新しい時
代を切り拓く子らに豊かな心と確かな学力を

(3) 開催期日

平成25年10月11日(金)・18日(金)

(4) 十勝大会会場校一覧

第1分科会…音更町立南中音更小学校
第2分科会…士幌町立上居辺小学校
第3分科会…上士幌町立萩ヶ岡小学校
第4分科会…鹿追町立上幌内小学校
第5分科会…芽室町立上美生小学校
第6分科会…更別村立上更別小学校
第7分科会…幕別町立糠内小学校
第8分科会…本別町立仙美里小学校
第9分科会…池田町立高島小学校

(5) 十勝大会の意義

第9次長期5か年研修推進計画の初年度で
あり、今後の研究の方向性を示す大会として
大きな役割を担っている。また、平成26年度
からは、これまで実施してきた「実践発表会」
を1日目に「分散会」を位置付け実施する大
会である。

4 全国三重大会

(1) 研究主題

『ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を
築く心豊かな子どもの育成』
～へき地・小規模・複式学級を有する学校の
特性を生かした学校・学級経営と学習指導の
深化・充実をめざして～

(2) 大会スローガン

美し国三重から 伝えよう 育もう
自立する力 共に生きる力

(3) 開催期日

平成26年11月7日(木)～8日(金)

(4) 分散会提言

①分散会5課題(学習指導の深化・充実)

「学習意欲や個に応じたきめ細やかな指
導を重視した指導方法の改善・充実を図る」

②提言者(石狩管内)

当別町立弁華別小学校 高橋 基教諭

③研究主題

自らの学びを追求し、ともに高め合う子ど
もの育成
～一人一人の学びが生きる複式授業の構築～

平成25年度 研究部報告

副委員長 石田 篤司

1 研究主題

主体的・創造的に学び、豊かな心でたくましくふるさとを拓く子どもの育成 ～へき地・複式教育の特性を生かし、児童一人一人に未来をはぐくむ学校・学級経営と学習指導の充実を目指して～

2 研究活動の重点と成果

道へき・複連第8次長計の最終年次として、実践研究を充実させ、地域に根ざした魅力ある教育活動の創造・発展に努める。

《重点》

- (1) 「第62回道へき地複式教育研究会日高大会」の成功を期した現地実行委員会との連携及び共同運営
- (2) 道へき・複連第8次長計「評価・発展期」最終年度としての確かな実践と記録の累積収集
- (3) 道へき地複式教育研究会十勝プレ大会の効果的な開催
- (4) 第28回北海道へき地複式教育実践発表大会の企画・運営
- (5) 道へき・複連第9次長計の啓発活動
- (6) 研究資料・情報等の編集と発行(「研究主題・指導形態等一覧」「研究部情報」)
- (7) 各地区へき・複連及び全国へき地教育研究連盟、教育関係各機関・団体との連携

《主な成果》

◎第62回全道へき地複式教育研究会日高大会

9月26・27日、日高管内7会場で開催され、全道から延べ500名近い参加者があった。大会スローガン「日高の大地に生きる 若駒のような子らに豊かな心と確かな学びを！」のもと、授業公開、熱心な研究協議が行われた。

◎第63回道へき地複式教育研究会十勝プレ大会

10月11・18日、十勝管内8町1村9会場において開催され、全道各地から600名を超える参加があった。大会スローガン「大空と大地の恵み『十勝野』に生き 新しい時代を拓く子らに豊かな心と確かな学力を」のもと、自ら学び合う児童の育成等について授業公開、研究協議が行われた。

◎第28回道へき地複式教育実践研究発表大会

10月25日、ホテルライフオーブ札幌において行われ、総勢59名の参加があった。

管内3地区から第8次長計に基づいて発表された提言はいずれも質が高く、活発な研究協議がなされた。講演では、北海道教育大学旭川校准教授の小出高義氏より、「へき地小規模校における子どもの体力向上に関して」と題して貴重なお話をいただいた。

28回続いた実践研究発表大会であるが、諸事情により今回で単独開催を終了し、来年度から全道へき複研究大会に分散会として組み込み、更なる充実を目指す。

◎研究主題等一覧の集計と活用

全道の加盟校の研究主題・研究分野、教科等指導形態について調査集計して、分析を加えてまとめた。各地区及び加盟校にCD化して配布、HPにも掲載して活用を図っている。

3 研究部事業報告

- | | |
|----------------|--|
| 5月20日 | 第1回企画・長計策定委員会 |
| | ・企画・長計策定委員会の体制と業務内容 |
| | ・道へき研日高大会の参加協力体制について |
| | ・日程・役割分担の確認と研究推進委員会の運営について |
| 5月20日
～21日 | 第1回研究推進委員会 |
| | ・平成25年度研究部計画の確認 |
| | ・研究推進委員の業務・役割分担 |
| | ・十勝プレ大会の助言者決定 |
| | ・各管内へき・複連活動状況交流 |
| 7月8日 | 第2回企画・長計策定委員会 |
| | ・道へき研、プレ研進捗状況 |
| | ・実践研究発表大会に向けて |
| | ・今後の研究と資料蓄積について |
| 7月8日
～9日 | 第2回研究推進委員会 |
| | ・研究主題・指導形態等調査発行 |
| | ・研究部情報第1号発行 |
| | ・実践研究発表大会の運営検討 |
| | ・日高大会、十勝プレ大会への具体的協力について |
| 9月26日
～27日 | 第62回道へき地複式教育研究会日高大会・日高管内7会場
(研究協力者) |
| 10月11日
・18日 | 第63回道へき地複式教育研究会十勝プレ大会 |
| | ・十勝管内9会場(研究協力者) |
| 10月24日 | 第3回企画・長計策定委員会 |
| | ・実践研究発表大会運営確認について |
| 10月24日 | 第3回研究推進委員会 |
| | ・実践研究発表大会の運営確認と準備 |
| | ・発表者・司会者・記録者等打合せ |
| 10月25日 | 第28回道へき地複式教育実践研究発表大会 |
| 1月10日 | 第4回企画・長計策定委員会 |
| | ・今年度の活動のまとめと次年度への展望 |
| | ・実践研究発表大会の反省 |
| | ・次年度の全道大会分散会について |
| 2月13日
～14日 | 第4回研究推進委員会 |
| | ・研究部情報第2号の発行 |
| | ・今年度の事業反省・まとめ |
| | ・次年度の全道大会分散会について |
| | ・各管内へき・複連活動状況交流 |
| | ・次年度の事業計画、研究推進体制について |

財政部報告

財政部長 松枝 国義

1 平成25年度業務執行について

- (1) 会計業務については、事務局及び各部、各委員会、各地区へき・複連との連携を図り、計画に従って執行しております。
- (2) 道へき・複連会費については、当初予算より会員が減少したため、納入額がやや減の状態になっております。一部運営資金も活用しながら、計画に従って執行してまいりました。
- (3) 全へき連会計につきましては、前年度より会員数が減少したことにより納入額がやや減っております。全へき連への免除申請を行い、負担金を決定し、全へき連の負担金送付を終えております。また、管理職負担金につきましては、各地区のご協力により入金され、全へき連へ送金することになっております。
- (4) 刊行物の購読促進につきましては、全へき連発行の「へき地・複式・小規模学校の実践事例集（ふるさとからの学び）」のみの取組となりました。各地区へき・複連においては発刊の趣旨をご理解賜り、ご協力いただいたことに感謝いたします。
 なお、送金先については、各地区へき・複連から直接全へき連へ納入することになっております。
- (5) 運営資金会計は、予定よりも若干増加しました。納入された金額の中から規定通り全へき連へ送金いたします。各地区へき・複連のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

2 平成26年度の予算編成について

- (1) 予算編成における収入の見込みについては、学校の統廃合や学校規模の縮小により、学校数・教職員数の減少等が予想されます。昨年度以上に厳しい情勢となることは必至です。予算編成の基礎資料として、3月末に各地区へき・複連の加入校数・教員数を調査し、収支予定額を把握した上で予算を編成します。各地区の担当者の皆様にはお手数をかけますが、よろしく申し上げます。
- (2) 平成26年度の一般会計については、諸活動の充実に努めるとともに、削減可能な項目をより意識して予算編成を行い、平成26年度総会に提案します。
- (3) 現在執行中の旅費規定は、予算編成の作業の中で検討し、削減が必要な場合ご協力を願うことも予想されます。
- (4) 全へき連会計は、納入される負担金の範囲内で執行します。各地区へき・複連においては引き続きへき地教員の納入拡大への働きかけや、養護教員・事務職員の納入、及び未加入校の加盟を促すようお願いいたします。
- (5) 刊行物会計については、平成26年度も、本道の実践も盛り込まれた全へき連の刊行物発行が予想されます。各地区へき・複連においては、研究図書を購入として予算付けし、購読促進の取組をぜひお願いいたします。

平成25年度 一般会計執行状況 (平成26年 1月17日現在)

【収入の部】

項目	25年度予算	1/17決算	増・減(△)
会費	3,545,424	3,278,682	△266,742
繰越金	379,254	379,254	0
繰入金	800,000	800,000	0
雑収入	322	1,508	1,186
合計	4,725,000	4,459,444	△265,556

【支出の部】

項目	25年度予算	1/17決算	増・減(△)
研究大会費	510,000	510,000	0
研究調査費	2,020,000	1,895,118	△124,882
研成刊行費	700,000	600,000	△100,000
事務局費	1,495,000	1,305,547	△189,453
合計	4,725,000	4,310,665	△414,335

◇学校数 264校

◇教員数 1507名

【差引残高(1/17現在)】 4,459,444円－4,310,665円＝148,779円

第63回全道へき地複式教育研究大会 十勝大会の開催に向けて

十勝へき地複式教育研究連盟

研究部長 原見 寿史

1 はじめに

昨年の10月11日に8会場において、18日に1会場において、第63回全道へき地複式教育研究大会十勝プレ大会が開催されました。

プレ大会へ向けては、会場校と研究協力校による分科会実行委員会を主体とした共同研究と、十複連が主催する「大学連携事業」「複式教員研修塾」等による研修活動を両輪に授業研究に努めてまいりました。

とりわけ、分科会実行委員会による共同研究では、どの分科会においても授業研や指導案検討等が6～9月の中で精力的に行われ、プレ大会へ向けた会場校の授業改善はもちろん、研究協力校にとっても授業力向上につながる貴重な取組となりました。

また、「大学連携事業」では、北海道教育大学学校・地域教育研究支援センターへき地教育研究支援部門のご協力により、会場校6校で国語・算数・体育・食育に関わる理論づくり、授業づくり、指導案づくりに対して専門的な視点から指導・助言をいただく機会となり、「複式教員研修塾」では、3校において公開授業・研究協議が行われ、複式の授業づくりが抱える課題の解決に迫る研修となりました。

こうした取組を経て開催されたプレ大会には、管外・管内より全会場合わせて610名の教職員及びご来賓・学校関係者の皆様にご参加いただきました。公開授業、研究協議では、複式授業の在り方について多くのご意見・ご助言をいただくことができました。この場をお借りしまして、あらためて心よりお礼申し上げます。

また、本研究大会開催にあたり、多大なるご支援・ご協力をいただきました北海道へき地・複式教育研究連盟をはじめ、北海道教育庁十勝教育局、北海道教育大学・地域教育研究支援センターへき地教育研究支援部門十勝管内教育委員会連絡協議会、各市町村教育委員会、会場校・研究協力校等、関係機関の皆様を重ねて感謝申し上げます。

この十勝プレ大会で明確になった成果と課題を整理し、次年度の本大会に向けてさらなる研究の充実を図り、実りある大会となるよう努力してまいります。

2 十勝プレ大会の成果と課題

十勝プレ大会は、北海道へき地・複式教育研究連盟第8次長期5か年研究推進計画の最終年度に

あたり、実践検証のまとめの大会と位置付け、「学習指導分野」の「第5・6・7・8課題」を中心に実践を積み重ねてまいりました。

その結果、以下のような成果と課題が明確になりました。

【成果】

- 学年別指導における四段階の学習過程や学び方がしっかり身につけており、自信をもって学習に取り組むようになった。
- 音読指導や算数的活動、ICTの活用などにより、確かな自力解決力が身につけてきている。
- 学習形態の工夫や主体的なガイド学習により、少人数における質の高い話し合い、伝え合い活動が見られるようになった。
- 児童の学習意欲、学習集団としての高まり、表現力・思考力の向上など、児童の姿に研究の成果が表われている。

【課題】

- ガイド学習の質的向上、同時間接指導などによる、間接指導のさらなる充実を図る。
- 小規模性を生かした児童個々の問題解決の質の向上と、個に応じたきめ細かな指導と評価の一体化を図る。
- 各教科における単元を貫く言語活動の指導計画への位置づけをする。
- 児童の考える力を伸ばし学習の定着につながるノート指導および児童の思考を助けるICT機器等の効果的な活用にも努める。

3 十勝本大会へ向けて

第63回全道へき地・複式教育研究大会十勝大会は、北海道へき地・複式教育研究連盟第9次長期5か年研究推進計画の初年度にあたります。十複連としては、第9次長計が掲げる「学習指導の深化と充実」に関わる4つの課題を受け、以下の観点で研究を進めてまいりたいと考えています。

- 個性の伸長を重視した指導計画・実践・評価
⇒個に応じたよりきめ細かな指導と評価の一体化
- 主体性を育てる学習指導過程
⇒間接指導の質の向上
- 学ぶ意欲を高める指導方法
⇒言語活動の重視、ICT機器等の有効活用
- 地域に根ざした学習内容
⇒地域の教育環境の有効活用

第63回全道へき地・複式教育研究大会十勝大会は、平成26年10月16・17日に開催いたします。さらに授業に磨きをかけて、全道に十勝の複式教育のよさを発信していけるよう努めてまいりますので、全道から多数の複式教員の皆様にご参加いただけることを心より期待しております。

第64回

全道へき地複式教育研究大会
宗谷プレ大会の開催に向けて

宗谷複式教育研究連盟

事務局長 沢口 智

1 宗谷複式教育研究連盟のあゆみ

昭和23年、本連盟の前身である宗谷単複教育連盟が発足し、この年発足した北海道単複教育研究連盟にも加盟しました。翌、昭和24年には稚内の市制移行に伴い、稚内市が町村とは別個に道単複連に加盟しました。

以来、稚内市と管内市町村のそれぞれが、豊かな実践を交流し、研究を推進してきましたが、昭和58年、管内複式教育研究を統一する組織の再編が図られ、現在の「宗谷複式教育研究連盟」が誕生しました。以降、へき地・複式・小規模校が極めて多い宗谷の教育の充実発展に大きく寄与してまいりました。

平成13年には「朔北の大地と海に生きる宗谷の子らに新しい時代を拓く力を」のスローガンのもと、加盟校はもとより管内教育の総力を挙げて、初めての全道へき地複式教育研究大会を開催しました。集合学習を含む19校16会場で、研究成果を発信し、高い評価をいただきました。

この大会で得た「わかる授業づくり、学力の向上、民主的學校づくり、連帯と協同、市町村教育の充実」という成果を『五つの財産』として、継承・発展させ、これまで管内へき地複式教育の研究を積み上げてきました。

今年度は、宗谷プレ大会に向けて再び管内教育の総力を結集すべく、各市町村での準備期間としました。それぞれの市町村の実態にあわせ、柔軟に協力体制を整えることができました。

2 宗谷プレ大会の位置づけ

第64回全道へき地複式教育研究大会宗谷プレ大会は、道へき・複連の大転換期の大会ととらえています。

(1) 道へき・複連第9次長計初年度

来年度は、第9次長期5カ年研究推進計画の初年度となります。第8次長計の成果を受け、第9次長計に沿った研究を推進します。

(2) 加盟校数の激減期おける大会

全道的に加盟校が激減しています。そのため以下の様な課題に直面しています。

①研究大会実施の困難性

②財政基盤の弱体化

③2分野8課題を網羅する研究の困難性

宗谷管内においても、前回大会の際に64校だった加盟校が、現在28校と半数以下になっております。宗谷プレ大会ではこれらの課題を踏まえ、「身の丈に合った」プレ大会のあり方を模索したいと考えています。

3 宗谷プレ大会の概要

(1) 第9次長計を踏まえた研究

・全加盟校への2分野8課題の取り組み状況アンケートの実施

(2) 会場校の実態に即した実施体制

・市町村研など、単式校との連携
・午後開催、期日変更等柔軟な日程

(3) 経費の節減

・ICTの活用、既存の会議の置き換え

(4) 宗谷らしさの追求

・地域ぐるみの教育、幼保小中連携教育、学校づくりを踏まえた学力づくりなど

以上をふまえ、平成26年9月10日（第6分科会）及び、9月26日に全9分科会で宗谷プレ大会を実施する予定です。

【第1分科会】猿払村 浜鬼志別小学校会場
・猿払村は2会場の公開です。

【第2分科会】猿払村 浅茅野小学校会場
・芦野小学校、浜猿払小学校との集合学習

【第3分科会】浜頓別町 頓別小学校会場
・町内単式校や中頓別町との連携で実施

【第4分科会】枝幸町 乙忠部小学校会場
・町複式研究組織体制で実施

【第5分科会】豊富町 兜沼小中学校会場
・複式1校のため町研大会として午後開催

【第6分科会】幌延町 問寒別小中学校会場
・複式1校のため町研大会を兼ね9月10日に

【第7分科会】礼文町 香深井小学校会場
・町研大会を兼ね午後開催 保小中高連携

【第8分科会】利尻町 仙法志小学校会場
・利尻富士町との両町研組織をベースに

【第9分科会】稚内市 宗谷小学校会場
・市複式教育研究組織体制で実施

4 おわりに

最後に、第64回全道へき地複式教育研究大会宗谷プレ大会に、全道より多数の方にお集まりいただき、今後の道へき・複連及び、研究大会のあり方について学び合う、有意義な大会となりますことを期待しております。